事例No.	2335
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	鹿児島県長島町

事例区分	地域活性化

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

ぶりと茶どころ鹿児島活性化事業

出典

ローカル10,000プロジェクト　ー地域密着型の起業や新規事業を支援します！

ローカル10,000プロジェクト　鹿児島県長島町
「ぶりと茶どころ鹿児島活性化事業」

令和２年度採択

【事業背景】
〇コロナ禍で養殖ぶりの販売が停滞。浜値以下での販売にもなり、水産業を基幹産業とする町の経済に大きな影響を与えている。

〇コロナ禍によりお茶の需要が伸びず、価格が低迷している。また、日本屈指のお茶産地でありながら「原料供給県」に甘んじている。

〇コロナ禍による巣ごもり需要が拡大し、手間を掛けずに食べられる商品の需要やインターネットによる販売が拡大しているが、それに対応できていない。

【事業実施者】 株式会社　夢ながしま

【自治体・金融機関の支援内容】
〇公費による交付額：23,500千円
国費（地域経済循環創造事業交付金）：17,625千円
地方費：5,875千円
〇鹿児島信用金庫による融資：25,000千円
【初期投資】水産加工場建設のための施設整備費など

【取組内容】
〇餌に地元産のお茶を混ぜることで茶カテキンの抗酸化効果により、色変わりや鮮度感に優れた、魚の生臭さがない「茶ぶり」「茶鯛」「緑茶カンパチ」の加工場を整備。

〇1/4カットや煮つけ用頭やアラのカットなど、コロナ禍による巣ごもり需要を見据えた一般家庭の消費者に向け商品に加工し販売。さらには、輸出に適合した商品を生産し、海外への販路拡大も目指す。

〇新たな養殖魚へチャレンジしようとしている若い世代に、製造ノウハウや加工行程の情報共有も実施。


茶ぶり商品


加工場の様子

【地域への貢献】

〇鹿児島大学農学部や地元金融機関との連携を通じ、生産量日本一の強みを生かした、新たなブランドを構築。

〇インターネット販売や海外への輸出など新たな市場を開拓することで、地域活性化を図る。

〇若い世代が取り組む新たな養殖魚の商品化や販売に積極的に協力し、水産業の後継者育成に貢献。